

編集後記

別府の第15回リハビリテーション医学会の第1日の夜、観海寺のホテルの静かな一室でこの後記を書いている。午後のシンポジウム「日本の社会福祉を考える——リハは地についたか」の最後の水野発言によって醸し出された会場内の熱気のような感じが未だに醒めやらない。詳細は最近号に掲載される学会印象記を読んで頂きたい。

本号では「脊損の自律神経機能」を特集した。これは第12回日本パラプレジア医学会（昭和52年）の際、私が司会をしたシンポジウム「脊損の自律神経機能」を骨子として編集したものである。

自律神経系は不随意的に行なわれている生体の植物性機能を調節してホメオステシスを司っているが、その解剖、生理については運動神経系や知覚神経系に較べて甚だ不明の点が多い。しかし、自律神経機能を理解するにはこれが基本とならなければならないので、この道に御造詣の深い佐藤氏に執筆して頂いた。氏らは自律神経の上行性線維や調節性支配などわれわれが最も知りたかった問題について詳述して下さい。今林氏は泌尿

器科領域に立って自律神経機能を研究しておられ、末梢のみでなく高位中枢の関与をも重視しておられる。山本氏は消化管における自律神経障害の御研究を詳述され、ことに消化、吸収に対する影響という興味ある知見を述べられた。浅山氏は起立性低血圧についての氏の研究成果をまとめられ、腹帯装着の有効性の理論を解明された。脊損にとって極めて特異的現象である自律神経過反射については、宮崎氏らが多数の臨床経験に基づいて原因、症状から治療にまで言及して下さい。

特集以外には福迫氏が、失語症簡易検査について紹介され、スクリーニング検査としての有用性を述べられた。また土肥氏は筋電図の波形分析について詳しい解説を寄せられている。

以上、どれ1つをとってみても、著者らの多年の御研究の集積であり、得がたい労作であって、読者に裨益する所が大きいと思われる。

最後にわれわれは常に読者諸賢からの御助言と御叱正をお待ちしていることを附記する。（土屋 弘吉）

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
小池 文英
砂原 茂一
津山 直一
水野 祥太郎

編集委員

明石 謙
上田 敏
大井 淑雄
大川 嗣雄
荻島 秀男
土屋 弘吉
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
江口 寿栄夫
小野 啓郎
河邨 文一郎
五味 重春
沢村 誠志
杉山 尚
武智 秀夫
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
間 得之
長谷川 恒雄
橋倉 一裕
平方 義信
福井 圀彦
三島 博信
渡辺 英夫
飯田 卯之吉
遠藤 千恵子
小川 孟
加藤 一郎
小島 蓉子
笹沼 澄子
鈴木 明子
高田 玲子
陳 慧玉
土屋 和夫
松村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第6巻第7号)

特集 装具

装具の新しい試み……………七沢病院 福井 圀彦
装具の用語について……………岡山大学 武智 秀夫
関節リウマチの装具……………川崎医大 明石 謙・他
小児下肢アライメント不良に対する装具……………大阪市大 大島 津 晃
装具の価格表の解説、計算の具体例……………川村義肢 川村 一郎・他

講座 筋・神経系の電気診断 (7)

(ミオパチーの筋電図)……………九州厚生年金病院 三好 正堂

一頁講座 リハビリテーション用語集 (1)……………都神経研 斎藤 宏・他